

第2学年1組 国語科学習指導案

1 単元 ようすを考えて読もう「お手紙」

2 学習指導の考え方

このような子どもたちだから
<p>本学級の子どもたちは、物語文教材「ふきのとう」「スイミー」の学習で、さし絵を手がかりに登場人物のしたことや行ったことに着目し、場面の様子を想像したり、気持ちを考えたりしながら話のあらすじを読み取ってきた。その中で、「にたことばと比べて読む」こと「さし絵とことばをつないで読む」こと「くりかえしを読む」こと「指示語を読む」ことなどの読み方を身に付けてきている。また、前の話とつないで自分の考えを発表し、進んで読み方を使って読み取ろうとする子も見られるが、まだ少なく、学習した読み方を進んで活用しているとはいえない。さらに、毎時間読み確かめたことを書きまとめる時に、読み取ったことを落とさずに書きまとめることがまだ不十分である。</p> <p>【「ふきのとう」「スイミー」で習得（あるいは確認）した読みアイテム】</p> <p>くり返しを読む」「ダッシュを読む」「ことばをはずして読む」「にた言葉と比べて読む」</p>

このような教材で	このような指導・支援を行いながら
<p>本読解教材「お手紙は」は、次のような特質をもっている。</p> <p>誰からもお手紙をもらったことのない悲しい気分のがまくんを見て何とかしてあげたいと思いやり、行動するかえるくんと、かえるくんのお手紙によって自分の近くに親友がいたことに気づき、喜びに浸るがまくんと温かい心の交流が表現され、友達に感心を持ち始めている2年生に共感するところが多い教材である。</p> <p>さし絵によって話の筋や場面の移り変わりがわかりやすく叙述とさし絵をつないで気持ちを考えていく手がかりにすることができる。</p> <p>短い会話を中心に構成され、役割読みにおいて人物に同化し、ことばに立ち止まって気持ちを読み取ることができる。</p> <p>こうした特質を踏まえて、本教材で習得・活用する読みの技能を次のように考えた。</p> <p>① 主人公がしたこと文に線を引き、大事な言葉を抜き出したり言い換えたりしてあらすじをまとめる</p> <p>② 「帰りました」「見つけました」「書きました」「入れました」のことばの順序を読む読み方で、たまたみかける言い方から急いでいる様子がわかる。</p> <p>③ 「とび出しました」をにた言葉の「出ました」と比べると急いでいる様子がわかる。</p> <p>④ 場面と場面をつないで読むとお手紙を出したことをかえるくんに話したわけや、お手紙を待つときのとてもしあわせなふたりの気持ちがわかる。</p> <p>⑤ 場面と場面のあいたところを読むととてもしあわせな気持ちでお手紙を待っている様子がわかる</p> <p>⑥ さし絵とことばをつないで読むとかえるくんやがまくんの様子や気持ちがわかる。</p> <p>読書への発展として、アーノルド・ローベルの本を読み、紹介文を書き交流する。</p>	<p>読みの技能の習得（読解教材「お手紙」で）</p> <p>登場人物の気持ちや様子を想像して読み取ることを学習するために、次の指導や支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ことばの順序を読む」読みアイテムは、本単元で新しく習得する読み方である。そこで、「帰りました」「見つけました」「書きました」「入れました」を音読したり、動作化したりすることで、たまたみかけるような言い方に気づかせるようにする。 ・「場面と場面のあいたところを読む」も新しく習得する読みアイテムである。そこで、これまでのお話しを思い出ししながら想像させるようにする。 ・1時間ごとの読みのまとめでは、かえるくんやがまくんの様子や気持ちを板書を振り返りながらお話しをし、書き出しを与え今日の学習で読み取ったことを書きまとめさせるようにする。 <p>読みの技能の活用</p> <p>既習の読みアイテム「にたことばを読む」「場面と場面をつないで読む」「さし絵とことばをつないで読む」については、視写や音読をしたり、前時までの学習を振り返ったりしながら、ことばに立ち止まって気持ちを読み取らせるようにする。</p> <p>「お手紙」で習得してきた登場人物の気持ちや様子を想像して、あらすじを読む技能をほかの作品の読書で活用するように次の指導や支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーノルド・ローベルのほかの作品を紹介し、読ませる。 ・気に入ったお話しについて、心に残ったことやおもしろかったことについて紹介文を書かせる。 ・紹介文を交流し、読書への意欲を広げるようにする。

このような目標を設定して学習指導を展開します。
<p>既習の読み方に気づいたり、音読や動作化を進んでしようとするができる（関心・意欲・態度）</p> <p>登場人物の気持ちや様子を読み取るために「にたことばを比べて読む」「場面と場面をつないで読む」「さし絵を読む」読み方を活用したり、「ことばの順序を読む」「場面と場面のあいたところを読む」読み方を習得したりすることができる。（読みの技能の習得と活用）</p> <p>アーノルド・ローベルのほかの作品を読み、心にのこったことを紹介文に書き、交流する。（読みの技能の活用）</p> <p>自分の考えを持ち、一回で聞こえる声で発表したり、友達の考えの良さやちがいに気づいたりしながら、話す聞く力を伸ばすようにする。（伝え合い）</p>

3 学習指導計画（全16時間）

過程	配時	主な学習活動と内容
読みの技能の習得	1	<p>1 単元名をもとに、単元の学習に対する構えをつくる。</p> <p>2 題名「お手紙」について話し合う。 いつ、だれから、どんなお手紙をもらったか自分の経験を話し合う。</p> <p>3 冒頭を音読する。</p> <p>4 登場人物を確認し、したことにサイドラインを引く。 主語に着目して、したことに線を引かせる。</p> <p>5 「ふたりとも悲しい気分で」に着目し、悲しい気分になっていることをさし絵とつないで考える。 「ふたりとも」に着目し、かえるくんとがまくんはそれぞれ何が悲しいのかを考えさせる。</p> <p>6 題名と冒頭から読みのめあてを作る 読みのめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>かなしい気分でげんかんの前にこしを下ろしているがまくんとかえるくんがこれからどうなるお話しだろう。 お話しがこれからどうなるのかという展開に興味を持たせ、読みのめあてをつくる。</p> </div>
	1	<p>1 教師の全文範読を聞く。</p> <p>2 新出漢字の読み方と難語句の意味を理解する。</p> <p>3 音読の練習をする。</p>
	2	<p>1 あらすじを書く。 さし絵をもとにがまくんとかえるくんがしたことをとらえ、お話しを順序をとらえる。 冒頭のあとの8枚のさし絵の最初と最後を意識させ、全体の順序を確認する。 さし絵からかえるくんとがまくんがしたことに着目し、本文にサイドラインを引く さし絵とがまくん、かえるくんがしたことをもとにひとつながりのお話しとして、300字以内であらすじをまとめる。 あらすじ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>かえるくんは、おおいそぎで家に帰りがまくんにお手紙を書いた。知り合いのかたつむりくんに、手紙をがまくんのゆうびんうけにいれてきてくれるようにたのんだ。がまくんは、ベッドでお昼寝をしていた。かえるくんは、まどからゆうびんうけを見たり、のぞいたりしてお手紙が来るのをまった。でも、かたつむりくんがなかなか来ないので、お手紙を書いたことをがまくんに話した。ふたりとも、とてもしあわせな気持ちでお手紙が来るのをまった。四日たってかたつむりくんががまくんの家につき、がまくんはお手紙をもらってとてもよろこんだお話。</p> </div> <p>2 読みのめあての答えを書きまとめる。 読みのめあての答えを短く書きまとめる</p>
	1	<p>1 読みのめあての答えを話し合う。 自分の書いた読みのめあての答えの不十分なところに気づき、見直しをする。 2枚のさし絵をもとに、かなしい気分からしあわせな気分になったのは、手紙に親友と書いてくれたことであることに気づかせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>読みのめあての答えの方向 かえるくんとがまくんが、親友になったお話。</p> </div>
	1	<p>1 学習計画を立てる かえるくんががまくんのことを思っていることがわかる叙述やがまくんがかえるくんのことを思っていることがわかる叙述を見つけ、かえるくんとがまくんがお互いにどう思っているのか詳しく読み確かめていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かえるくんは大急ぎで家に帰ってお手紙を書いて、飛び出したところ。 ・ かえるくんが何度もまどからのぞいたり、見たりするところ。 ・ お手紙を出したことをがまくんに話しているところ。 ・ ふたりともしあわせな気持ちでお手紙をまっているところ。 ・ 4日間まって、がまくんがお手紙をもらってよろこんだところ。 <p>詳しく知りたいことや疑問に思うことを場面ごとに整理する。</p>
1	<p>大急ぎで家に帰ってがまくんにお手紙を書き、またもどるまでのかえるくんは、がまくんのことをどう思っているのか読み確かめる。</p> <p>1 本時場面を音読する。</p> <p>2 視写をする。</p> <p>3 大急ぎで家に帰ってかえるくんに手紙を書き、家からとび出すかえるくんの様子や気持ちを話し合う。 「見つけました」「書きました」「入れました」を音読し、たたみかける言い方に気づき、かえるくんの急いでいる様子を読み取る。 「とび出しました」を「出ました」と比べることで、かえるくんの急いでいる様子を読み取る。</p>	

	<p>4 お手紙をかたつむりくんに頼んだわけを話し合う。</p> <p>5 本時で学んだ読みアイテムを確認し、読み確かめたことを書きまとめる。</p>
	<p>何度もまどからのぞいたり、見たりするかえるくんはがまくんのことをどう思っているのか読み確かめる。</p> <p>1 本時場面を音読する。</p> <p>2 視写をする。</p> <p>3 かえるくんやがまくんになって役割読みをし、様子や気持ちを話し合う。 かえるくんとがまくんの会話文に着目し、がまくんのあきらめている様子やかえるくんのがまくんを思う一生懸命な様子や気持ちを読み取る。</p> <p>4 本時で学んだ読みアイテムを確認し、読み確かめたことを書きまとめる。</p>
本時	<p>お手紙のことを話したかえるくんはがまくんのことをどう思っているかそれを聞いたがまくんの気持ちを読み確かめる。</p> <p>1 本時場面を音読する。</p> <p>2 視写をする。</p> <p>3 お手紙のことを話したかえるくんとがまくんの気持ちを話し合う。 「とてもいいお手紙だ」で、がまくんは何がいいと言っているのか考え、「親友」と書いてくれたことであることを読み取る。</p> <p>4 本時で学んだ読みアイテムを確認し、読み確かめたことを書きまとめる。</p>
1	<p>しあわせな気持ちでお手紙を待っているふたりはどう思っているのか読み確かめる。</p> <p>1 本時場面を音読する。</p> <p>2 視写をする。</p> <p>3 とてもしあわせなふたりの様子や気持ちを話し合う。 まだ、お手紙が届いていないのにふたりともしあわせな気持ちになったわけを考え、自分のために行動し、親友と言ってくれるかえるくんがいることを書きまとめる。</p> <p>4 本時で学んだ読みアイテムを確認し、読み確かめたことを書きまとめる。</p>
1	<p>お手紙をもらって喜ぶがまくんとかえるくんはどう思っているのか読み確かめる。</p> <p>1 本時場面を音読する。</p> <p>2 視写をする。</p> <p>3 四日間のふたりの様子や、お手紙をもらって喜ぶがまくんとかえるくんやかたつむりくんの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>4 本時で学んだ読みアイテムを確認し、読み確かめたことを書きまとめる。</p>
1	<p>読みのまとめをする。</p> <p>1 題名に戻って、「お手紙」の果たした役割を振り返る。</p> <p>2 読み確かめてきたことを付け加えて詳しくなったお話しを家の人へのお手紙として書きまとめる。</p>
読みの技能の活用	<p>4</p> <p>1 アーノルド・ローベルののほかの作品を読む。</p> <p>2 気に入ったお話しについて、心に残ったことやおもしろかったことなどについて紹介文を書く。</p> <p>3 交流会をする。</p>

4 本時 平成20年11月11日(火)5校時

5 本時の目標

進んで音読したり、既習の読み方に気づいたりすることができるようにする。(関心・意欲・態度)
 お手紙のことを話したかえるくんとそれを聞いたがまくんの気持ちを読み取るために、「場面と場面をつないでよむ」「にたことばと比べて読む」読み方を身に付けることができるようにする。(読みの技能の習得と活用)
 自分の考えを持ち、一回で聞こえる声で発表したり、友達の考えのちがいやよさに気づいたりしながら、話す聞く力をのばすようにする。(伝え合い)

6 本時の授業仮説

こんな子どもたちに	こんな手立てを取れば	こうなるだろう
<p>本時場面において、かえるくんががまくんのことを思っていることがわかるところは、かえるくんががまくんにお手紙を出したことを話したり、その手紙に親友だと書いているところだと子どもたちは、らえている。その中で、子どもたちは、次のような疑問を持っている。</p> <p>内緒にしておけばいいのになぜかえるくんはお手紙のことをかえるくんに話したのか</p> <p>がまくんがいう「いいお手紙」とは何がいいのか。</p> <p>そこで、お手紙のことを話したときのかえるくんやがまくんの様子や気持ちを詳しく読んだり、疑問を解決していくことで、かえるくんががまくんのことをどう思っているのか読み確かめていく。</p>	<p>学習のはじめに、前時を振り返り今日使えそうな読み方について確認し、読み方を意識させておく。そして、音読と視写をさせることにより、かえるくんとがまくんのしたことに着目させる。</p> <p>次に、かえるくんががまくんにお手紙のことを言ってしまったわけを話し合いかえるくんのがまくんを思う気持ちを前の場面とつなぎながら読み取らせる。</p> <p>そして、それを聞いたがまくんの気持ちを「ああ。」「とてもいいお手紙だ」の音読を通して、どこがいいのか話し合い、お手紙に書いてある「親友」の意味を自分たちが使っている「親友」と比べることによって読み取らせる</p> <p>本時のまとめでは、板書をもとに教師が問い返ししながら、本時学習を振り返らせてから、書きまとめさせる。</p>	<p>かえるくんがお手紙のことを話したわけをかたつむりくんがなかなかこないことや、がまくんが落ち込んでいきかわいそうだからなど、前の場面とつないで考えると思われる。そこで、読みアイテムを使ったことを確認する。</p> <p>また、音読をすることで、親友といってくれたことを喜んでくれているがまくんの気持ちに気づくと思われる。そして、お手紙に書かれた内容をにたことばと比べて読むことで、お手紙の良さをとらえさせる。さらに、子どもたちにとっての「親友」は「仲良しで一緒に遊ぶ友達」であることが多い。そこで、かえるくんの親友らしさと比べることで「相手が悲しんでいるときに何度も励ます友達」を親友といっていることに気づかせ、親友への見方・考え方が広がるだろうと考える。</p> <p>学習のまとめでは、教師が問い返しをしながら、代表児が学習の振り返りをする中で、どのように書きまとめればよいかモデルとなり、本時のかえるくんとがま君の親友らしさについて書きまとめることができると考える。</p>

7 準備

教師...前時までの学習の足跡を記した模造紙(掲示物), さし絵
 子ども...読み取りノート

8 本時の展開

学習活動と内容	指導・支援
<p>1 本時の学習のめあてを確かめ、学習の見通しを持つ。</p> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>お手紙を書いたことを話したばめんのかえるくんとがまくんはおたがいにもどう思っているのかくわしく読もう。</p> </div> <p>(1) 本時場面を音読する。 (2) 視写をする。 (3) 本時場面の疑問を確かめ、板書に位置づける。 (4) 使えそうな読み方を確認する。</p> <p>2 お手紙のことを話したかえるくんとそれを聞いたがまくんの気持ちを話し合う。</p> <p>(1) どうしてかえるくんは自分からお手紙を出したことを話してしまったのか考える。</p> <p>!・かたつむりくんがあんまりやってこないからだ!</p>	<p>さし絵を見ながら本時のあらすじを代表児にお話しさせながら今日の場面をとらえさせる。</p> <p>今日使えそうな読み方を確認する。</p> <p>学習計画で出てきた疑問を確かめて、それを解決し、本時場面のかえるくんはがまくんのをどう思っているのかのか書きまとめるといって1時間の学習の見通しを持たせる。</p> <p>はきはきすらすらと元気な声で音読させる。 ていねいにすらすら書くようにさせる。</p> <p>かたつむりくんがまだこないことやがまくんがどんどんとあきらめてしまう様子から手紙を出したことを話したかえるくんの気持ちを考えさせ「場面と場面をつない</p>

思います。

- ・ がまくんがおちこんでいくから、かわいそうに思ったからだと思います。

(2) それを聞いたがまくんの気持ちを「ああ。」「とてもいいお手紙だ」とつないで考える。

- ・ かえるくんが自分のことを親友だと思っていてくれたことがわかってうれしかったからいいお手紙だと言ったと思います。
- ・ がまくんのことを大事にももってくれていたことがわかったのでいいお手紙といったと思います。

(3) かえるくんが書いた「親友」の意味について話し合う。

自分たちが普段使っている親友の意味を話し合う。

- ・ 保育園のころからいつも遊んでいるので親友です。
- ・ 休み時間や家に帰ってからよく遊んでいるので親友です。

かえるくんが、がまくんのためにしてきた親友らしいことを見つけ、話し合う。

- ・ がまくんがお手紙が来ないと落ち込んでいたら自分で手紙を書いてあげたところです。
- ・ お手紙を一緒に待ってあげていたり、はげましてあげているところです。

3 本時学習を振り返り、まとめる。

(1) 本時学習で学んだ読み方をふりかえる。

(2) 本時学習で読み取ったことを書きまとめる。

かえるくんは、おちこんでいくがまくんを見て早く喜ばせてあげようと思って、お手紙のことを話したと思います。がまくんはかえるくんが自分のことを親友でうれしいと言ってくれたので、大事に思ってくれたことがうれしかったと思います。

で読む読み方を習得させる。

役割読みをして気持ちを考えさせる。

お手紙の中のなにがいいと言っているのか考えさせ、「親友」だと書かれたことに気づかせる。そして、がまくんのことを大事に思ってくれているかえるくんの気持ちにがまくんが気づいたことをとらえさせる。

自分たちが普段思っている「親友」とはだれか、どんな友達かを出し合い、「保育園からずっといっしょの仲よし」や「いつも遊ぶ友達」と比べて、かえるくんが書いた「親友」とのちがいを考えさせる。

前時までの学習とつないでかえるくんががまくんにしてきた親友らしいことを想起させる。

ただの仲よしや遊び友達だけではなく、相手が悲しんでいるとき声をかけてあげたり、何度も何度も励まし続けることから、かえるくんの親友らしさをとらえさせる。

今日読み取ったことを板書を指し、教師が問い返ししながら振り返り、使った読み方を確認し、読み方カードに記録する。

本時学習で読み確かめたことをおうちの人への手紙として書きまとめさせる。